



JUPITER-8 PLUG-OUT Software Synthesizer

取扱説明書

はじめに

初めてご使用になるときは、セッティング (P.9) の MIDI Input/Output を設定してください。

お使いの DAW の設定については、DAW のヘルプや取扱説明書をお読みください。

商標について

- VST は、Steinberg Media Technologies GmbH の商標およびソフトウェアです。
- JUPITER はセイコーホールディングス株式会社の日本国における登録商標です。本製品では許諾を得て使用しています。
- Roland、PLUG-OUT、AIRA は、日本国およびその他の国におけるローランド株式会社の登録商標または商標です。
- 文中記載の会社名および製品名は、各社の登録商標または商標です。



画面の構成

メイン・ウィンドウ

音作りに使う、さまざまなつまみやスライダーが表示されます。

P.4

[PLUG-OUT] ボタン

JUPITER-8をSYSTEM-8に組み込みます。

P.8

レベル・メーター

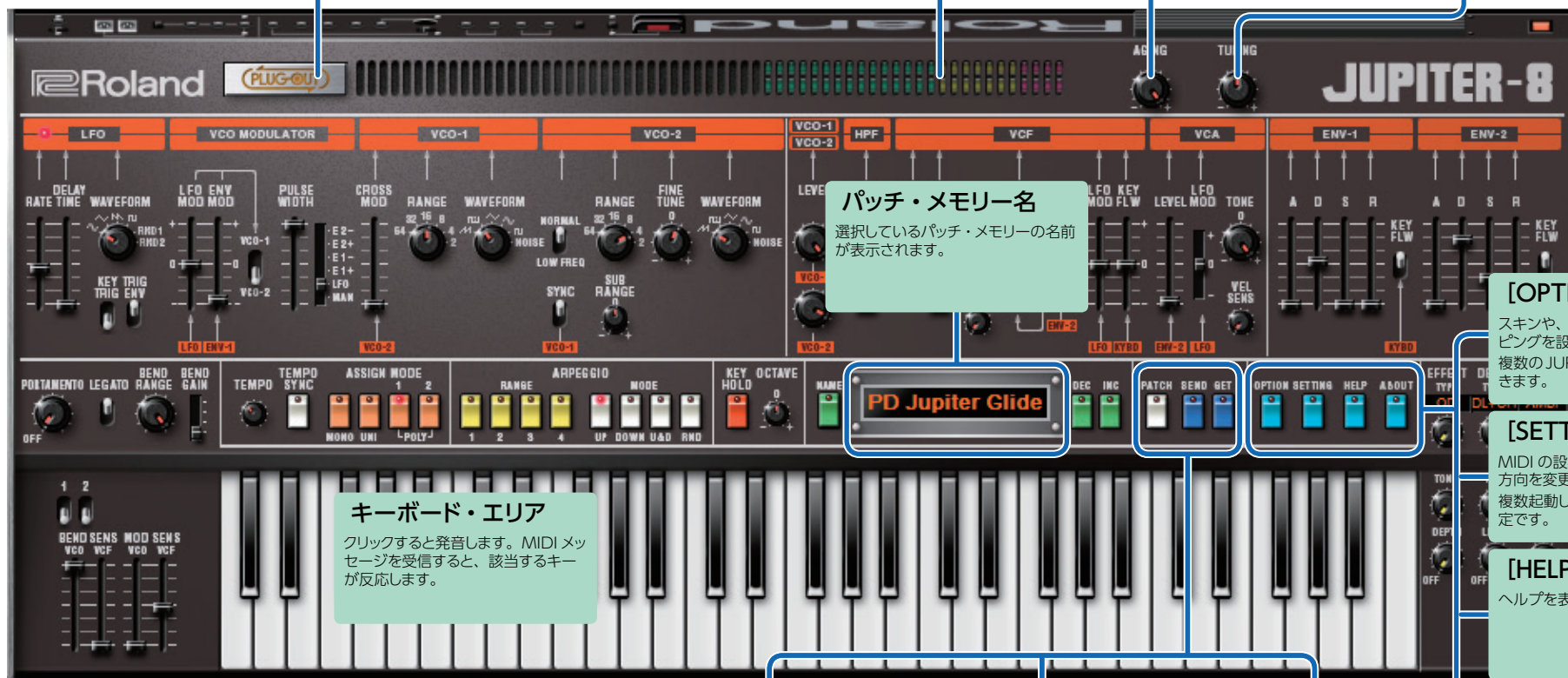
アウトプット・レベルを表示します。

[AGING] つまみ

JUPITER-8の使用年数による音色の変化を調節します。

[TUNE] つまみ

JUPITER-8全体のピッチを調節します。



パッチ・メモリー名

選択しているパッチ・メモリーの名前が表示されます。

キーボード・エリア

クリックすると発音します。MIDIメッセージを受信すると、該当するキーが反応します。

[OPTION] ボタン

スキンや、MIDI コントロール・マッピングを設定します。
複数のJUPITER-8でそれぞれ設定できます。

P.9

[SETTING] ボタン

MIDIの設定と、マウスのスクロール方向を変更（Macのみ）します。
複数起動したJUPITER-8で共通の設定です。

P.9

[HELP] ボタン

ヘルプを表示します。

[PATCH] ボタン

パッチ・メモリーを選択します。
Patch Select 画面が開きます。

P.6

[SEND] ボタン

メモリーをSYSTEM-8に転送します。

P.8

[GET] ボタン

SYSTEM-8のPLUG-OUTモードでエディット中のメモリー（テンポラリー）を、JUPITER-8に取り込みます。

P.8

[ABOUT] ボタン

JUPITER-8についての情報を表示します。

※ SYSTEM-8のMODELがJUPITER-8のときのみ機能します。

メイン・ウィンドウ

LFO

音に周期的な変化（うねり）をつけます。

RATE	うねりの速さを決めます。
DELAY TIME	キーを押してから LFO の振幅が最大になるまでの時間を設定します。
WAVE FORM	～（正弦波） △（三角波） 〰（のこぎり波） □（矩形波） RND (1/2)（ランダム波）
KEY TRIG スイッチ	キーを押したタイミングと LFO の周期が始まるタイミングを合わせるか (ON)、合わせないか (OFF) 設定します。
TRIG ENV スイッチ	LFO の周期でエンベロープが繰り返し立ち上がり（ON）。

VCO MODULATOR

VCO を変調して、音を変化させます。

LFO MOD	LFO で VCO を変調する際のかかり具合を調節します。
ENV MOD	ENV-1 で VCO を変調する際のかかり具合を調節します。
VCO-1 / VCO-2	LFO MOD / ENV MOD で変調する対象の VCO (1、2、1+2) を選びます。 中央のときは、どちらも変調します。
PULSE WIDTH スライダー / スイッチ	スイッチが「MAN」(MANUAL) のとき： パルス・ウィズの値を調節します。 スイッチが「LFO」「E1+」「E1-」「E2+」「E2-」のとき： モジュレーションの深さを調節します。

HPF

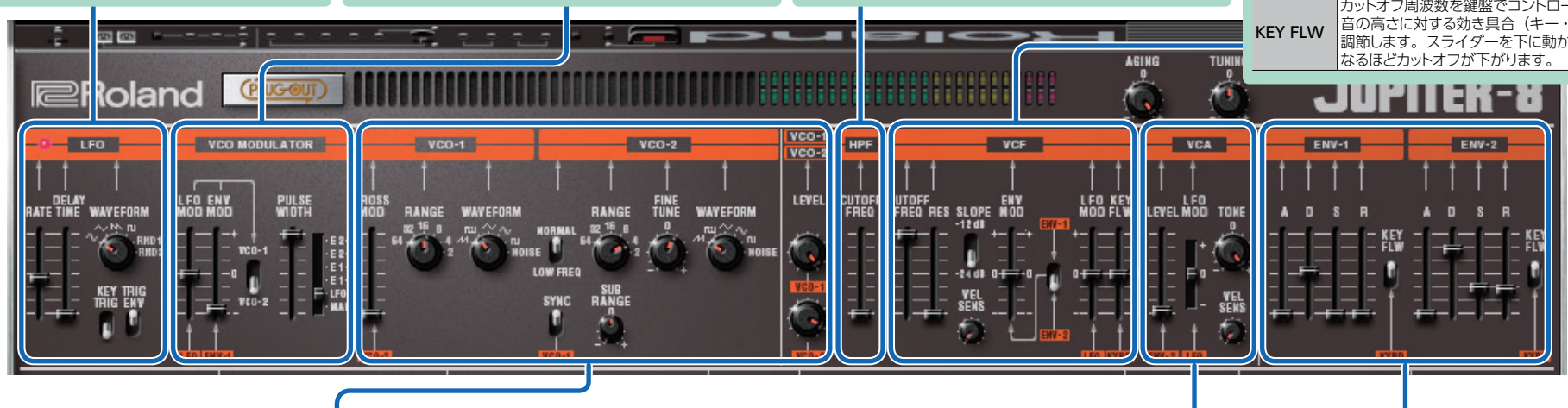
高い周波数を通過させて低い周波数をカットする、ハイ・パス・フィルターです。

CUTOFF FREQ	ハイ・パス・フィルターのカットオフ周波数を決めます。カットオフ周波数より低い周波数成分をカットします。
-------------	---

VCF

低い周波数を通過させて高い周波数をカットする、ロー・パス・フィルターです。

CUTOFF FREQ	ロー・パス・フィルターのカットオフ周波数を決めます。カットオフ周波数より高い周波数成分をカットします。
RES	レゾナンスを調節します。値を大きくするほど強調の度合いが大きくなり、シンセサイザー特有のクセのある音になります。
SLOPE スイッチ	ロー・パス・フィルターの傾き（スロープ）のタイプを選びます。
VEL SENS	キーを押す強さでフィルター・エンベロープの効き具合を変化させるときの感度を調節します。
ENV MOD	カットオフ周波数を ENV（エンベロープ）でコントロールするときのかかり具合を調節します。
ENV MOD スイッチ	コントロールに使用するエンベロープを選びます。
LFO MOD	LFO でカットオフ周波数を変化させます。
KEY FLW	カットオフ周波数を鍵盤でコントロールする際の、音の高さに対する効き具合（キー・フォロー）を調節します。スライダーを下に動かすと、高音になるほどカットオフが下がります。



VCO-1 / VCO-2

音のキャラクターを決める波形を選び、音の高さを決めます。

CROSS MOD	VCO-2 の波形で VCO-1 の周波数を変化させます。スライダーを上動かすほど VCO-1 の音は複雑な音になり、金属的な音や効果音を作ることができます。
RANGE	オシレーターのオクターブを設定します。
WAVE FORM	音の基本となる波形を選びます。 〰（のこぎり波）、△（非対称矩形波）、～（三角波）、～（正弦波）、□（矩形波）、NOISE（ノイズ）
NORMAL / LOW FREQ スイッチ	LOW FREQ がオンになると、VCO-2 は LFO として動作します。 このときは SUB RANGE でピッチ（周波数）を変更するため、どの鍵盤を弾いても同じピッチになります。

SYNC スイッチ	オシレーター・シンクです。VCO-1 の周期に合わせて VCO-2 を強制的に周期の始めに戻すことにより、複雑な波形を作り出します。
SUB RANGE	VCO-2 のピッチ（音の高さ）を半音単位で調節します。
FINE TUNE	VCO-2 のピッチ（音の高さ）を微調整します。
LEVEL (VCO-1)	VCO-1 の音量を調節します。
LEVEL (VCO-2)	VCO-2 の音量を調節します。

VCA

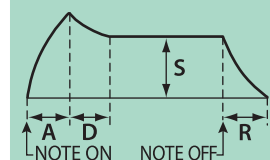
音量の時間的な変化（エンベロープ）のかかり具合を調節します。

LEVEL	音量を調節します。
LFO MOD	LFO で VCA の音量を変化させます（トレモロ効果）。
ENV MOD	音質を調節します。
VEL SENS	キーを押す強さで音量を変化させるときの感度を調節します。

ENV-1 / ENV-2

時間的な変化（エンベロープ）を作ります。

A	アタック・タイム
D	ディケイ・タイム
S	サステイン・レベル
R	リリース・タイム
KEY FLW スイッチ	キー・フォローをオンにすると、低音になるほど ADR が長くなり、高音になるほど ADR が短くなります。減衰音系の楽器音の表現に適しています。



TEMPO / ASSIGN MODE

TEMPO	ステップ・シーケンサー／アルペジオのテンポを設定します。設定したテンポのタイミングでインジケーターが点滅します。
TEMPO SYNC	LFO セクションのうねりの速さ (RATE) や EFFECTS セクションのディレイ・タイム (TIME) を、テンポに同期させます。
MONO	単音で発音します。
UNI	複数音重ねて単音として発音します (ユニゾン)。
POLY-1	ポリフォニックで演奏します (ポリ)。
POLY-2	

ARPEGGIO

RANGE 1 ~ 4	アルペジオの音域をオクターブ単位で選びます。
MODE UP	キーを押さえた順に鳴ります。
MODE DOWN	キーを押さえた順の逆に鳴ります。
MODE U&D	UP と DOWN を繰り返します。 UP の最終音が DOWN の開始音となります。
MODE RND	押さえたキーの音をランダムに鳴らします。

OTHER

KEY HOLD	キー・ホールド機能のオン／オフを切り替えます。
OCTAVE	鍵盤の音域を 1 オクターブ単位で動かすことができます。
NAME	パッチの名前を設定します。
DISPLAY	パッチ名を表示します。
DEC/INC	前の (次の) パッチを選びます。

EFFECT / DELAY / REVERB

EFFECT TYPE	エフェクト・タイプを選びます。
DEPTH	エフェクトの音色を調節します。
DELAY TYPE	ディレイ・タイプを切り替えます。
TIME	音を遅らせる時間を調節します。
LEVEL	ディレイの音量を調節します。
REVERB TYPE	リバーブ・タイプを切り替えます。
TIME	リバーブ・タイムを調節します。
LEVEL	リバーブの音量を調節します。



PORTAMENTO / PITCH BEND / MODULATION

PORTA-MENTO	ポルタメントをかけたときのピッチ変化にかかる時間を調節します。
LEGATO	レガート奏法 (あるキーを押しながら他のキーを押す) のときにだけポルタメントがかかります。
BEND RANGE	ピッチ・ベンド・レンジを設定します。
BEND GAIN	BEND RANGE の倍率を設定し、変化幅を拡張します。
1/2 スイッチ	VCO-1/2 それぞれにピッチ・ベンド、モジュレーションを有効にするかしないかを設定します。
BEND SENS VCO	ピッチ・ベンド操作をしたときのピッチの変化する量を設定します。
BEND SENS VCF	ピッチ・ベンド操作をしたときのフィルターの变化する量を設定します。
MOD SENS VCO	モジュレーション操作をしたときのピッチの変化する量を設定します。
MOD SENS VCF	モジュレーション操作をしたときのフィルターの变化する量を設定します。

メモリーとバンク

1. [PATCH] ボタンをクリックします。

Patch Select 画面が表示されます。

[NEW] ボタン

空の状態の新規バンクが作成されます。

[DELETE] ボタン

選択したバンクを削除します。

[LOAD] ボタン

バンクが読み込まれます。

[SAVE] ボタン

バンクをファイルに書き出します。



「i」マーク

マウス・カーソル (マウス・ポインタ) をこの上に重ねると、ショートカット一覧が表示されます。

ご注意

64 個のメモリーを選択中のバンクで受信して、上書きします。バンクの状態を保持したい場合は、新規バンクを作成し、作成したバンクで受信してください (P.7)。

[SEND ALL] ボタン

バンクに登録されているメモリーをすべて (64 個) SYSTEM-8 に送信します。

[GET ALL] ボタン

SYSTEM-8 に登録されているメモリーをすべて (64 個) 受信します。

[WRITE] ボタン

エディットした音色を、メモリーとしてバンクに保存します。

[RENAME] ボタン

選択したメモリーの名前を変更します。

[READ] ボタン

バンクに登録してあるメモリーを読み込みます。

バンク

64 個のメモリーをまとめたものを「バンク」と呼び、バンクを切り替えることで、数多くのメモリーを呼び出すことができます。バンクはファイルとして保存することができます。

Bank

Memory 01
Memory 02
Memory 03
⋮
Memory 64

バンクを切り替える

1. バンク欄をクリックします。

バンク・リストが表示されます。

2. 呼び出したいバンクをクリックします。

バンク欄右側にある [▲] [▼] ボタンを押すと、1 つ前、1 つ後ろのバンクに切り替えることができます。

バンクを書き出す

バンクをファイルに書き出します。

1. [SAVE] ボタンをクリックします。

ファイル名入力画面が表示されます。

2. ファイル名を入力し、保存します。

ファイルが書き出されます。

バンクを読み込む

1. [LOAD] ボタンをクリックします。

ファイル選択画面が表示されます。

2. ファイルを選択し、読み込みます。

バンクが読み込まれます。

バンクを作成／削除する

バンクの作成

[NEW] ボタンをクリックすると、空の状態の新規バンクが作成されます。

バンクの削除

選択したバンクを削除します。

1. 「バンクを切り替える」(P.6) の手順で、バンクを選択します。
2. [DELETE] ボタンをクリックします。
確認画面が表示されます。
3. [OK] をクリックして、削除します。

バンク名を変更する

1. 「バンクを切り替える」(P.6) の手順で、バンクを選択します。
2. バンク欄左側にある ▶ をクリックします。
3. 名前を変更し、[Return (Enter)] キーを押します。

メモリー

JUPITER-8 では、64 個のメモリーを 1 バンクとして管理します。

メモリーを読み込む

バンクに登録してあるメモリーを読み込みます。メモリーを読み込むと、エディット・エリアに設定が表示され、エディットできるようになります。

1. 読み込むメモリーの番号をクリックします。
2. [READ] ボタンをクリックします。または [Return (Enter)] キーを押します。
メモリーが読み込まれます。
※メモリー番号をダブルクリックして、メモリーを読み込むこともできます。

メモリーを保存する

エディットした音色を、メモリーとしてバンクに保存します。

1. 保存するメモリーの番号をクリックします。
2. [WRITE] ボタンをクリックします。
メモリーがバンクに保存されます。

メモリー名を変更する

1. 名前を変更するメモリーの番号をクリックします。
2. [RENAME] ボタンをクリックします。
3. 名前を変更します。(最大 16 文字)

メモリーの順番を変更する

メモリー番号をドラッグして、メモリーの順番を変更します。

SYSTEM-8 で演奏する

SYSTEM-8 をパソコン (Mac / Windows) に接続すると、JUPITER-8 と SYSTEM-8 を組み合わせて使うことができます。

MIDI ポートとして表示される「SYSTEM-8 CTRL」は、JUPITER-8 が使用するポートです。DAW からは使用しないでください。

プラグアウト

プラグアウトとは？

JUPITER-8 をはじめとするソフトウェア・シンセサイザーを、SYSTEM-8 に組み込んで使用することができる技術です。

- ・ パソコンを使わずに SYSTEM-8 単体で、JUPITER-8 を演奏することができます。
- ・ 選択中のバンクの情報を SYSTEM-8 に転送することができます。
- ・ SYSTEM-8 のつまみやスライダーを使って、音色をエディットすることができます。



プラグアウトの手順

1. [PLUG-OUT] ボタンをクリックします。
2. SYSTEM-8 の MODEL ボタンに対応する、PLUGOUT 先 (PLUG-OUT1 ~ PLUG-OUT3) を選択します。
確認メッセージが表示されます。
3. [OK] ボタンをクリックします。

プログレス・バーが表示され、プラグアウト処理が始まります。およそ 1 分かかります。

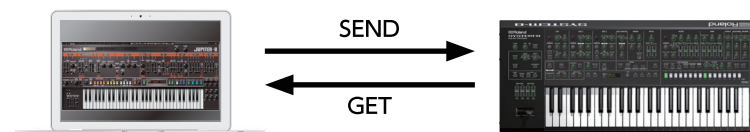
※すでに JUPITER-8 をいずれかの PLUG-OUT 先 (PLUG-OUT1 ~ PLUG-OUT3) にプラグアウトしてる場合は、新たにプラグアウトすることはできません。

※すでにほかのソフトウェア・シンセサイザーが SYSTEM-8 にプラグアウトされている場合は、確認メッセージが表示されます。続けるには、[OK] をクリックします。

エラー・メッセージが表示される場合は、次の項目を確認してください。

- ・ MIDI ポートは正しく設定されていますか？ (P.9)
- ・ SYSTEM-8 とパソコンが接続されていますか？

メモリーのセンド／ゲット



1. SYSTEM-8 をパソコンと接続します。
2. プラグアウト先の SYSTEM-8 の MODEL [PLUGOUT1 ~ 3] ボタンをオンにします。
※メモリーをセンド／ゲットするには、あらかじめプラグアウト (P.8) しておく必要があります。

メモリー・センド

JUPITER-8 の現在のメモリーを、SYSTEM-8 に送信して、SYSTEM-8 で鳴らすことができます。音は SYSTEM-8 の OUTPUT 端子から出力されます。

3. JUPITER-8 の [SEND] ボタンをクリックします。
メモリーが送信されます。

メモリー・ゲット

プラグアウトした JUPITER-8 のメモリーを SYSTEM-8 でエディットしたとき、そのメモリーを JUPITER-8 に取り込むことができます。

3. JUPITER-8 の [GET] ボタンをクリックします。
メモリーが取り込まれます。

エラー・メッセージが表示される場合は、次の項目を確認してください。

- ・ MIDI ポートは正しく設定されていますか？ (P.9)
- ・ SYSTEM-8 とパソコンが接続されていますか？
- ・ SYSTEM-8 の MODEL [PLUG-OUT 1 ~ 3] ボタンはオンになっていますか？
- ・ JUPITER-8 が SYSTEM-8 にプラグアウトされていますか？ (P.8)

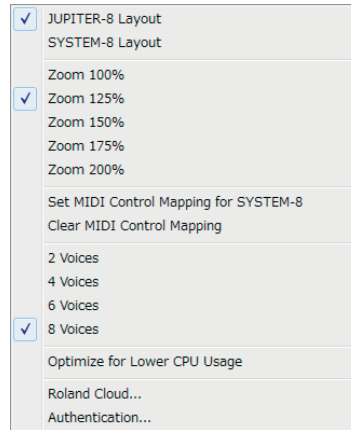
設定

オプション

1. [OPTION] ボタンをクリックします。

2. 項目を選択します。

選択されている項目には、✓が表示されます。



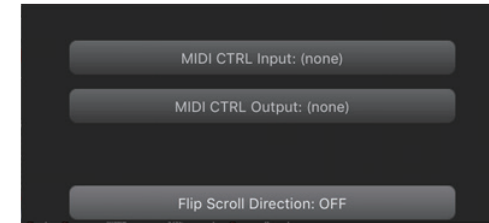
項目	説明
JUPITER-8 Layout SYSTEM-8 Layout	メイン・ウィンドウの操作子の配置を変更します。 JUPITER-8 Layout : JUPITER-8 (オリジナル) 相当の配置にします。 SYSTEM-8 Layout : SYSTEM-8 と同じ配置にします。
Zoom	メイン・ウィンドウのサイズを変更します。
Set MIDI Control Mapping for SYSTEM-8	MIDI コントロール・チェンジの対応を、SYSTEM-8 をコントロール・サーフェスとして使用する設定にします。
Clear MIDI Control Mapping MIDI	コントロール・チェンジの対応をすべてクリアします。
2 ~ 8Voices	最大同時発音数を設定します。 発音数を減らすと、CPU への負荷を下げることができます。
Optimize for Lower CPU Us- age	CPU 使用率が高くなり音切れが発生するときは、ON にしてください。
Roland Cloud...	Roland Cloud サイトを表示します。
Authentication...	JUPITER-8 のユーザ認証を行います。

セッティング

1. [SETTING] ボタンをクリックします。

Setting 画面が開きます。

※Flip Scroll Direction は Mac のみ。



2. パラメーターを変更します。

パラメーター	説明
MIDI CTRL Input	「SYSTEM-8 CTRL」を選びます。
MIDI CTRL Output	
Flip Scroll Direction (Mac のみ)	マウスのスクロール・ホイールで値を変更するときの、回転方向を反転します。

※複数の JUPITER-8 を起動したとき、すべてに適用されます。

その他

DAW 上の JUPITER-8 (プラグイン) を SYSTEM-8 で鳴らす場合は、SYSTEM-8 のメニューから「SYSTEM」→「SOUND」→「Local Sw」の設定を「SURFACE」にしてください。

SYSTEM-8 内蔵の音源は鳴らなくなり、JUPITER-8 だけが鳴らせるようになります。
詳しくは、SYSTEM-8 リファレンス・マニュアルをご覧ください。